第1228回例会（8月第二例会）5クラブ合同例会

地区ガバナー　北畑英樹
（八尾菊花ＬＣ所属）

地区ガバナー公式訪問・5クラブ合同例会

日　時　平成26年8月27日（水）　　12：15～14：00
場　所　天王寺都ホテル　5階　「吉野の間」
出席者数　　8名
欠席者数　　6名　（内既メーク　3名）

キャビネット三役・第一副地区ガバナー
地区役員・地区委員　来賓の皆様

8月第二例会は、地区ガバナーをお迎えしての5クラブ合同例会。中村猛第一副地区ガバナーも随行して出席され、賑やかに開催されました。国際会長のテーマ、地区ガバナースローガン・運営方針を軽快にお話される中にきりりと引き締まった会だったと思います。
当日は、北畑地区ガバナーのお誕生日でもあり、ケーキのお祝いもありました。

上半期、職務訪問・公式訪問と大きな行事も無事終わり、ホストクラブの皆様　お疲れ様でした。

テールツイスターの活躍は、ホスト大阪帝陵ＬＣ　臼井敏雄ＴＴを中心に、北畑ガバナーに関する問題で会場が賑わいました。

誇りを高める

ライオンズクラブ国際協会
2014～2015 年度　国際会長
ジョセフ・プレストン

2014～2015 年度、私たちライオンズは、家族である135 万人の会員の絆をさらに強め、協調と相互理解の精神のもと、奉仕に取り組むことにより「誇りを高める」ことができます。これは得意になって自慢するという意味の誇りではありません。より良い地域づくりに向け成し遂げたことへの誇り、有意義な奉仕を行っていることへの誇り、自力だけでは困難を切り抜けられない人々を助けることへの誇りのことです。
この誇らしく思う気持ちが、私たちに他者への奉仕を決意させる基となるものを作るのであり、私たちを人道奉仕におけるグローバルリーダーにならしめているのです。これは、これからの1年に亘り、また協会創立100 周年を通じて、更には今後100 年におよび、成功を収めるための礎となるものです。

奉仕　友愛　Ｌ字の誇り

2014～2015 年度
335 -Ｂ地区ガバナー
北畑　英樹

ライオンズクラブは世界208 カ国と領域、メンバー数140 万人を誇る世界一の奉仕団体であり、それぞれに言語、習慣、宗教の異なる国々の多くのメンバーを結束させている力は、言うまでもなく「We Serve」の精神です。
それと同じく、大阪府・和歌山県、昔でいえば摂津・河内・泉州・紀州と、それぞれに文化・風習・人心が微妙に違い、加えて年齢差による価値観も異なる6,000人以上のメンバーが在籍する我が335-B地区が団結するには、全メンバーが「We Serve」の精神を強く共有する以外の道はありません。
繰り返しますが「We Serve」こそがライオンスクラブの原点であり、誇りであり、結束力なのです。
現在、ライオンズクラブにはメンバーの減少、高齢化など多くの問題が山積していますが、こんな時こそ、我々はライオンズクラブの原点である「We Serve」に真摯に戻るべきだと考えます。

さて、世の中の困っている人々や不幸な人々を助けるには、ふたつの方法があります。
そのひとつは「慈善」であり、ひとつは「奉仕」です。
「慈善」というのは、お金持ちがその有り余る財貨を困っている人々に分け与える、いわば「上からの目線での援助」です。
一方「奉仕」というのは、それほどお金持ちでない人達が、「少しの時間、」「少しの労力」「少しの金銭」を割いて、困っている人々を助けようとする行為です。仲間としての「パートナーシップに基づく援助」だと言えるものです。
我々メンバーに大富豪はいません。みんな懸命に自分の事業に汗を流しているのです。そして、その中から「少しの時間」「少しの労力」「少しの金銭」を提供し、その行動を多くのメンバーが団結・協力して行うことで大きな成果を挙げているのです。これが「We Serve」「われわれは奉仕する」の意味であり、意義なのです。　ですから「We Serve」の「We」すなわちメンバーの数が多いほど、いい奉仕活動ができるのです。　このことを考えると、歴代の国際会長が毎年毎年「会員増強」を声高に訴える意味は、おのずと明らかになる事と思います。
そして、私は奉仕活動のキーワードを「ライオンよ、街に出よう！」と致しました。
金銭を市町村や福祉団体・学校などに寄付するアクティビティの意義は充分に認めますが、あまり寄付や寄贈に傾くと、ライオンズクラブはお金持ちの集まり、金持ちの慈善団体という誤解の元になってしまい、一般市民との垣根ができてしまうのではないかと、私は危惧しています。
わたしは、メンバーがもっと街に出て「市民に顔の見える奉仕活動」をしてほしいのです。
労働奉仕やアクティビティ資金獲得活動をクラブ合同で、あるいは他団体と連携し、一般市民を巻き込んだ活動活発に展開したいのです。